

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500344		
法人名	医療法人社団 きのこ会		
事業所名	グループホーム ローゴム		
所在地	岡山県笠岡市東大戸2712-3		
自己評価作成日	令和2年3月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=3370500344-00&ServiceCd=320&Tyne=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年3月より、同建物の2階の場所に新たに1ユニット(9名)増床し、2ユニットとなりました。1階はピック病専門として、2階は地域密着型のグループホームとなっていました。ピック病の入居希望者減少の為令和1年より1階も地域密着型グループホームとすることになりました。ピック病とその他の認知症の入居者が穏やかに共同生活が出来る様に日々関わっています。職員も、入居者が一人二人と増えていく中で試行錯誤し、入居者の皆さんに関わらせていただいています。現在新型コロナウイルス感染症の為外出や面会に制限がありますが、今後も感染症対策を実施しながら、この場所で四季を感じながら穏やかに生活していただけるよう、ドライブや季節行事に力を入れていきたいと思っています。

平成13年3月開設から十数年間続いたピック病専門のグループホーム「ローゴム」に外部評価で行くようになり数年。3年前に地域密着型グループホームとして新しく生まれ変わったホームに訪問した時には、まだ1階は以前の名残りが色濃く残っていて退去された方達の顔が懐かしく思い出されたが、今回の訪問では1・2階とも介護度が軽くて元気な人が多く、活気に溢れたリビングの様子を見て、特に1階の雰囲気は一変し本当に普通のグループホームになったんだと実感した。しかし、管理者はじめその当時の職員もいて、長年培われてきたケアのノウハウは踏襲され、良い形で活かされている。職員のフットワークも良く、記録を見ても日常的に散歩やドライブ等の外出支援が充実している。「つき過ぎず、離れ過ぎず、あるがままで」をこれからも継承して下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者のあるがままを受け入れ、共感すること、その人らしく生活できるように、職員一人ひとりが法人理念を理解し、共有して接している。	前身のピック病専門のグループホームの時から理念を念頭に置きながら、その人らしくのびのびとした暮らしが出来るように、職員も日々のケアを通して、利用者が安心できる居場所作り、環境作りに励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染対策の為、地域の方や近隣施設との交流行事はあまり出来ていない。グループ内保育園と夏祭り、ハロウィーンの時期に交流し、神輿を引っ張る、仮装した園児を見て、入居者はとても喜ばれていた。	もともと立地条件から地域の人との交流には以前から課題があったが、事業所保育施設「きのこのこ保育園」との交流があり、昨年秋にはお神輿の訪問があったという記録もあった。認知症カフェや地域サロンへ行く機会も減ったが、この敷地内での交流も地域交流と言えるかもしれない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染対策の為、地域貢献の機会はなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染対策の為、運営推進会議は中止している。 二カ月に一回、市に活動報告は行っている。	コロナ禍の為、従来のような参集しての運営推進会議は出来ていない。しかし、笠岡市へ写真を掲載した活動状況報告・ヒヤリハット報告等詳細な報告を定期的に行っていることが議事録から確認出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染対策について情報共有したり、事故報告書の提出・確認をしてもっている。不明な点があり、その都度問い合わせると、スムーズに対応してもらえる。	書面での運営推進会議報告を市の担当者に提出しホームの現状を理解してもらっている。また、笠岡市の集団指導に参加したり、諸々の書類に関する相談やコロナ対策に対して連携を取り合う等、良い協力関係が構築出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことでは何も生まれないことを職員一人ひとりが理解している。どのような行為が拘束にあたるのかをその都度考え、意見交換を行いながら身体拘束をしないケアを実践している。	定期的に身体拘束・虐待防止の研修を行い、スピーチロックについても職員はよく認識している。特に身体拘束を必要とする状態の人もなく、日中も玄関の施錠はしていない。外に出たい時には一緒に散歩に行ったり、さりげない声かけをして気分転換をしてもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への対応を常にスタッフ間で話し合い、話題にあげることで、常に意識してケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する資料を準備し、いつでも閲覧可能なように整えている。認知症の方が利用されているグループホームの職員として、成年後見制度は身近な法制度として理解していく必要があると感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な書類を提示、配布し説明を行っている。利用途中に行われる介護報酬の改定や加算の増減などの利用料に関することは、文書だけの同意でなく、口頭での説明を行って納得していただいている。また、不明な点や質問をいつでも受け付けられる環境を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染対策の為面会自体が少なく、家族の意見を聞く機会自体が少なかった。その中でも、面会時は積極的にコンタクトを取り、入居者の現状を包み隠さず報告、内容をすぐ記録に残すようにしている。職員全員が家族の思いを周知し、サービスにつなげるよう努力している。	今は1・2階共地域密着型グループホームなので家族も地域の人が多く、面会も制限はあるもののコロナ対策をしながら行っている。また、機会あるごとに意見や要望を聞くようにしている。また、電話等で近況報告をしたり話し合っており、意見・要望があれば運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間の合間に提案や意見交換する機会を作り、運営に取り入れている。また、連絡ノートや介護記録などを通じて、管理者がスタッフの思いをくみ取り、個別に意見を聴く機会も設けている。	1名ではあるがピック病の利用者も引き続いて入所しているので難しい点もあると思うが、管理者・職員は以前から勤務しているベテランなので職員間のコミュニケーションもよく取れており、意見交換をしたり経験の浅い職員への指導もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、法人管理職との情報交換を都度行っており、職員の意見や要望を伝える機会を設けている。また、自ら考えて行動できる環境を整え、いつでも相談できるような信頼関係を築き、働き甲斐のある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染対策の為、法人による社内研修、グループホーム独自の勉強会および社外研修がほとんど行えなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、二か月に一回開催されるグループホーム部会に参加し、情報及び意見交換を行っていた。コロナウイルス感染対策の為、回数は少ないが、話し合う場は作れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからはまず、職員が入居者の思いをくみ取り、「ここに居てもいいんだ」と安心してもらえるように関わっている。また、担当職員を決め、その職員を中心に、入居者と一緒に生活環境を整えたり、不安を解消するケアを展開する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初から全ての情報を把握するというよりも、入居後の面会などを通じて、徐々に信頼関係を築いていき、何でも話せる環境作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に知っている情報だけに頼るのではなく、入居後に家族の方から得られた情報や入居者の今の状態をその都度記録に残し、職員全員で共有できるようにしている。そして、担当職員が中心となり、入居者にとって過ごしやすい環境が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを忘れず、常に尊敬の念を持って接している。相手の立場を思いやり、入居者が「ここに居てもいいんだ」という安心感を持って暮らしていただけるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者にとって家族はかけがえのない存在であるが、コロナウイルス感染対策の為、面会制限があり、なかなか顔を合わせることが出来ない。その代わりに電話や手紙で近況を伝え、面会が可能になればその都度連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染対策の為、面会制限があり、なかなか顔を合わせることができない。その代わりに、電話や手紙で近況を伝えている。	玄関でパーテーション越しの面会やベランダで面会をしてもらったり、他施設入所の家族とのリモート面会、妻の告別式に参加、夫の通夜に参列する等、コロナ下にあってもしっかりと対策を取りながら、馴染みの人や家族とのこれまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で入居者一人ひとり人間関係があるので、トラブルなど無いよう、必要に応じて、職員が間に入り声かけを行っている。そうすることで馴染みの関係を築くことも出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力病院への入院や在宅復帰という形でサービス利用の終了を迎えても、電話などを通じて、その後の経過を把握して、相談援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をうかがえない方が多い中、担当するスタッフを中心として意見を集め、日々の暮らしの中からその人らしさがあるケアを提供していけるように努めている。	元気なうちに会っておきたいという本人の希望により、主治医に相談しながらコロナ下ではあるが家族の付き添いで他施設入所の母に面会に行ったケースもある等、一人ひとりの思いや意向をしっかり受け止め出来る範囲で実現に向けた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時や電話での会話の中で、本人に関する話を伺い、その都度介護記録に残すことで情報共有している。その情報をもとに、その方の可能性を引き出せるようなケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録では、毎日のバイタルやスタッフ自身の意見・感想を記入するようにすることで、職員全員がいつでも意見および情報交換出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に、入居者が抱えている問題に常に目を向け、可能性を見いだせるようなケアプランの作成に取り組んでいる。	ケアプランの意向欄には本人の言った言葉が口語体で記入しており、生活の中での要望や課題の項目にそのままこの意向が反映されている。また、定期的にケアカンファレンスやモニタリングをして、状態の変化があればその都度プランを見直し、一人ひとりがその人らしく暮らせるように職員間で話し合っている。	3年前の目標達成計画に「入居者ご本人の言葉や行動から思いや訴えを感じ取り、それをスタッフ間で共有しケアプランに活かす」とあった。身体機能維持を大切にしながらも、精神面に重点を置いた良いプランになっていると思う。現状にとどまらず今後のスキルアップに期待している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの記録に、スタッフの意見、気づきや思いを書くことで情報を共有し、より良いケアへつながるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	敷地内にある美容院へ出張を依頼、行楽地へのドライブ、季節行事の実施など、日常的に幅広いサービスが提供できるような取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンへ参加、社会福祉協議会紹介によるサークルの方の楽器演奏を聴いたりなどの地域資源活用していたが、コロナウイルス感染対策の為、実施出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内にある病院より、月一回の往診および年二回の健康診断を実施している。また必要な方には、訪問歯科を定期的にご利用いただいている。常に必要な医療が受けられるよう情報を共有しており、より入居者の希望や要望に応えられるよう支援している。	母体病院の院長はじめ担当医数名の往診がある他、きのご診療所の耳鼻科、他病院の皮膚科等への他科受診の支援もしている。また、機能訓練にも力を入れており病院の作業療法士や看護師との連携体制もあり、医療と介護が繋がっているので安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を把握し、昼夜問わず母体となっている病院看護職との連携強化を行うことで、より広い視野を持って入居者の生活を支えている。また、医療行為等が必要と判断した場合はすぐ連絡をとり、適切な処置を行えるような支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護記録に入院中の様子を記入、現在の様子を把握することに努めている。その後の退院に備え、スムーズにグループホームで暮らせるよう、病院関係者と連絡を密にとるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化によって、医療面のサポートが不可欠になった場合のことを考え、事前に主治医・本人・家族と話し合いを行うことにしている。日常生活の中で、入居者の状態を見ながら協力病院と連携を図り、主治医に報告・相談する体制を整えている。	2日前に同一敷地内の母体病院に入院された利用者が今朝亡くなったという事で慌しい雰囲気の中、夫婦入所していたご主人も最期のお別れに病院に行かれていた。重度化したり医療が必要となったら、医療機関に入院するケースが多く、ホームでの看取りはないが、今後の検討課題としては考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも見る事が出来るようにしている。急変時には、敷地内にある病院と連携が取れる状況を作っている。新型コロナウイルス感染症に対しても同様の対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルを作成、年2回のグループ全体の避難訓練の実施と災害に対して対策、訓練に備えている。災害用の備蓄も定期的に管理している。	同一敷地内にある4つのグループホーム合同で火災・地震等を想定した避難訓練を実施しており、老健、母体病院とも協力体制や災害時対策を構築している。定期的に消防設備の点検をしたり、備蓄品の点検をして備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の発言、入居者への声かけや対応をプライバシー保護の観点から常に考えられるよう、お互いにチェックできる環境作りに取り組んでいる。	全体的に介護度が軽度な人が多いので、コミュニケーションも比較的取りやすいが、親しくなっても人生の先輩として敬い、自尊心を傷つけないように言葉や態度には気をつけている。また、気になるような点はお互いに注意喚起を促すように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナウイルス感染対策を実施しながらでも、日常生活の中で入居者の方がやりたいことなどを聞き、希望が叶えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの生活パターンを把握し、気持ち良く過ごせる事を第一としている。その日の体調や様子に応じて、柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や髭剃りなどの整容、その方に合った衣類など、入居者一人ひとりが个性的で、お洒落な装いが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理中の様子を五感で感じていただけるよう、リビングでの過ごし方を工夫している。食事中は、互いの顔が見られる空間で、楽しく快適に食事が出来るように取り組んでいる。準備・後片付けを手伝って役割を持ってもらったり、おやつと一緒に作るなどして楽しみを持ってもらえる様に心掛けている。必要に応じてコロナウイルス感染対策を実施、密を回避、飛沫に注意している。	ワンユニットの頃から食事は3食職員手作りであり、1・2階ユニットになってからも、それぞれメニューは異なるが昼食は調理専門の職員が作り、朝・夕は当日勤務の職員が買い物、調理をしている。介護度が軽度な人が多く、殆どの人は食事は自立で自分の箸で摂取出来、皆さん美味しそうに食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの方に応じた水分量を一日の間でしっかりと補給できるように取り組んでいる。個々に応じた食事形態や提供の仕方を工夫している。また、食事量の変化を見逃さないよう、記録に残して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科で、歯科医、衛生士による専門的なアドバイスも受けやすくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に記入、入居者一人ひとりの排泄パターンを職員全員で把握することで、トイレで自然な排泄ができるよう取り組んでいる。	排泄が自立で布パンツ使用、布の失禁パンツ、紙パンツにパット、紙オシメ等、個々の状態に合わせてその人に適した排泄用品を職員間で検討し合っている。排泄の自立支援に向けたケアに努め、紙パンツだった人が尿失禁が減って布の失禁パンツになり、改善したケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の検討、日常的な運動を行い、入居者が必要最低限の下剤服用で、スムーズな排便を促せるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりがゆっくり入浴出来るように、時間に余裕を持ったケアをするように取り組んでいる。安全に配慮、必要に応じた声掛けをしながら、気分転換になるように会話をするように心掛けている。	入浴する時間は特に決まっていなかったが、週2回を基本に1日2～3人ずつ入浴している。1階の利用者1名以外は1・2階とも全員湯舟に浸かる事が出来、職員と1対1でコミュニケーションを取りながらゆっくり入浴してもらっている。また、廊下から脱衣場への段差も危なくないように安全対策を施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとり生活リズムは違うが、適度に運動できるよう関わり、必要なら適度な昼寝の時間を設けることで生活のリズムを整えて、夜間の安眠および休息を支援している。夕食後から就寝まで自由に過ごしてもらうことで、入眠しやすい環境も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理、使用を徹底している。関係医療機関と連携を図り、症状の変化によって減薬、処方薬の見直し等を考え、主治医および看護師、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染対策実施しながら、外出やドライブと一緒に掛ける、花壇にお花を植えたり、花瓶に生けたり、歌と一緒に歌を歌うなど、それぞれの楽しみに合わせたケアに取り組んでいる。それに加え、食事の準備・後片付け、洗濯物たたみなど家事の手伝いをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染対策実施しながら、入居者一人ひとりに応じて歩行器、車椅子など使用して、散歩に出かけたり、ドライブなどにも行っている。	笠岡干拓地が近い事もあり、菜の花見学に出かけたり、ドライブがたら梅や桜の季節には花見に出かける等、非日常を楽しんでもらおうと出来る限り外出支援をしている。天気の良い日は広い敷地内の散歩やベランダでの日光浴・外気浴等で気分転換をしている。また、娘と外出、通夜や告別式への参列等の個別外出支援もしている。	コロナ下にあっても、感染防止対策をとりながら生活の充実が図れるように外出する機会を作る取り組みや職員のフットワークの良さは素晴らしいと思うので、これからも非日常を楽しむいろいろな企画に期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染対策の為、入居者は買い物などへは行くことが難しいので、直接お金を使う機会はないが、必要な物があれば職員が代わりに購入し、要望に応じている。預り金使用した分は出納帳に記入、コピーを家族へ送り、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルス感染対策の為、面会制限があり、なかなか家族にも会えない状況なので、家族への手紙を一緒に書いたり、家族の方からかかってきた電話に本人も出してもらうようにして様子が伝わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすいようテーブルや椅子を配置し、壁に季節感のあるものを飾っている。また、観葉植物などをさりげなく配置して、生活に安心感を与えられるよう配慮している。コロナウイルス感染対策の為、密にならないようにしている。	1階・2階とも日当たりの良い明るいリビングで脳トレのドリルをしている人もいれば、職員と一緒に談笑しながら紙の花作りをしている人達もいて、和やかな雰囲気です。居心地の良い環境になっており、男性利用者がソファでのんびり寛いでいる姿も印象的だった。リビングにある水槽のメダカの餌やりも利用者がしているとの事だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには雰囲気に合わせたテーブル、椅子を配置し、入居者の関係性を考慮しながら、穏やかに過ごせるように座席を検討する等の工夫をしている。ソファもゆっくり過ごせる様に、テレビ前に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、入居者の状況に合わせて配置を変えている。昔から使っていた物、写真、オーディオ、仏壇などを必要に応じて持ち込んでもらい、落ち着いて過ごせる環境作りに取り組んでいる。各居室にトイレが備わり、ゆったりと排泄できる環境を提供している。	建物自体がスウェーデン直輸入なので、内装も北欧調であり明るく清潔感がある。仏壇、家族の写真、馴染みのある家具、思い出の品々等に囲まれ、家庭の延長線のような居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り歩けるよう介助する為、人がすれ違えるほどの廊下の広さを確保している。長時間同じ姿勢にならない為に違う硬さの椅子を用意している。部屋やトイレが分からなくなる入居者の方のために表札を付けたたり、歩行が不安定な方には手すりを付けたたり、家具の配置を工夫したりといった取り組みを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500344		
法人名	医療法人社団 きのこ会		
事業所名	グループホーム ローゴム		
所在地	岡山県笠岡市東大戸2712-3		
自己評価作成日	令和2年3月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ji_yosyoCd=3370500344-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年3月より、同建物の2階の場所に新たに1ユニット(9名)増床し、2ユニットとなりました。1階はピック病専門として、2階は地域密着型のグループホームとなっていました。ピック病の入居希望者減少の為令和1年より1階も地域密着型グループホームとすることになりました。ピック病とその他の認知症の入居者が穏やかに共同生活が出来る様に日々関わっています。職員も、入居者が一人二人と増えていく中で試行錯誤し、入居者の皆さんに関わらせていただいています。現在新型コロナウイルス感染症の為外出や面会に制限がありますが、今後も感染症対策を実施しながら、この場所で四季を感じながら穏やかに生活していただけるよう、ドライブや季節行事に力を入れていきたいと思っています。



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者のあるがままを受け入れ、共感すること、その人らしく生活できるように、職員一人ひとりが法人理念を理解し、共有して接している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染対策の為、地域の方や近隣施設との交流行事はあまり出ていない。グループ内保育園と夏祭り、ハロウィーンの時期に交流し、神輿を引っ張る、仮装した園児を見て、入居者はとても喜ばれていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染対策の為、地域貢献の機会はなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染対策の為、運営推進会議は中止している。 二カ月に一回、市に活動報告は行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染対策について情報共有したり、事故報告書の提出・確認をしてもっている。不明な点があり、その都度問い合わせると、スムーズに対応してもらえる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことでは何も生まれないことを職員一人ひとりが理解している。どのような行為が拘束にあたるのかをその都度考え、意見交換を行いながら身体拘束をしないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への対応を常にスタッフ間で話し合い、話題にあげること、常に意識してケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する資料を準備し、いつでも閲覧可能なように整えている。認知症の方が利用されているグループホームの職員として、成年後見制度は身近な法制度として理解していく必要があると感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な書類を提示、配布し説明を行っている。利用途中に行われる介護報酬の改定や加算の増減などの利用料に関することは、文書だけの同意でなく、口頭での説明を行って納得していただいている。また、不明な点や質問をいつでも受け付けられる環境を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染対策の為面会自体が少なく、家族の意見を聞く機会自体が少なかった。その中でも、面会時は積極的にコンタクトを取り、入居者の現状を包み隠さず報告、内容をすぐ記録に残すようにしている。職員全員が家族の思いを周知し、サービスにつなげるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間の合間に提案や意見交換する機会を作り、運営に取り入れている。また、連絡ノートや介護記録などを通じて、管理者がスタッフの思いをくみ取り、個別に意見を聴く機会も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、法人管理職との情報交換を都度行っており、職員の意見や要望を伝える機会を設けている。また、自ら考えて行動できる環境を整え、いつでも相談できるような信頼関係を築き、働き甲斐のある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染対策の為、法人による社内研修、グループホーム独自の勉強会および社外研修がほとんど行えなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、二か月に一回開催されるグループホーム部会に参加し、情報及び意見交換を行っていた。コロナウイルス感染対策の為、回数は少ないが、話し合う場は作れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからはまず、職員が入居者の思いをくみ取り、「ここに居てもいいんだ」と安心してもらえるように関わっている。また、担当職員を決め、その職員を中心に、入居者と一緒に生活環境を整えたり、不安を解消するケアを展開する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初から全ての情報を把握するというよりも、入居後の面会などを通じて、徐々に信頼関係を築いていき、何でも話せる環境作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に知っている情報だけに頼るのではなく、入居後に家族の方から得られた情報や入居者の今の状態をその都度記録に残し、職員全員で共有できるようにしている。そして、担当職員が中心となり、入居者にとって過ごしやすい環境が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを忘れず、常に尊敬の念を持って接している。相手の立場を思いやり、入居者が「ここに居てもいいんだ」という安心感を持って暮らしていただけるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者にとって家族はかけがえのない存在であるが、コロナウイルス感染対策の為、面会制限があり、なかなか顔を合わせることが出来ない。その代わりに電話や手紙で近況を伝え、面会が可能になればその都度連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナウイルス感染対策の為、面会制限があり、なかなか顔を合わせることができない。その代わりに、電話や手紙で近況を伝えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で入居者一人ひとり人間関係があるので、トラブルなど無いよう、必要に応じて、職員が間に入り声かけを行っている。そうすることで馴染みの関係を築くことも出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力病院への入院や在宅復帰という形でサービス利用の終了を迎えても、電話などを通じて、その後の経過を把握して、相談援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をうかがえない方が多い中、担当するスタッフを中心として意見を集め、日々の暮らしの中からその人らしさがあるケアを提供していけるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時や電話での会話の中で、本人に関する話を伺い、その都度介護記録に残すことで情報共有している。その情報をもとに、その方の可能性を引き出せるようなケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録では、毎日のバイタルやスタッフ自身の意見・感想を記入するようにすることで、職員全員がいつでも意見および情報交換出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に、入居者が抱えている問題に常に目を向け、可能性を見いだせるようなケアプランの作成に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの記録に、スタッフの意見、気づきや思いを書くことで情報を共有し、より良いケアへつながるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	敷地内にある美容院へ出張を依頼、行楽地へのドライブ、季節行事の実施など、日常的に幅広いサービスが提供できるような取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンへ参加、社会福祉協議会紹介によるサークルの方の楽器演奏を聴いたりなどの地域資源活用していたが、コロナウイルス感染対策の為、実施出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内にある病院より、月一回の往診および年二回の健康診断を実施している。また必要な方には、訪問歯科を定期的にご利用いただいている。常に必要な医療が受けられるよう情報を共有しており、より入居者の希望や要望に応えられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を把握し、昼夜問わず母体となっている病院看護職との連携強化を行うことで、より広い視野を持って入居者の生活を支えている。また、医療行為等が必要と判断した場合はすぐ連絡をとり、適切な処置を行えるような支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護記録に入院中の様子を記入、現在の様子を把握することに努めている。その後の退院に備え、スムーズにグループホームで暮らせるよう、病院関係者と連絡を密にとるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化によって、医療面のサポートが不可欠になった場合のことを考え、事前に主治医・本人・家族と話し合いを行うことにしている。日常生活の中で、入居者の状態を見ながら協力病院と連携を図り、主治医に報告・相談する体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも見ることが出来るようにしている。急変時には、敷地内にある病院と連携が取れる状況を作っている。新型コロナウイルス感染症に対しても同様の対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルを作成、年2回のグループ全体の避難訓練の実施と災害に対して対策、訓練に備えている。災害用の備蓄も定期的に管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の発言、入居者への声かけや対応をプライバシー保護の観点から常に考えられるよう、お互いにチェックできる環境作りに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナウイルス感染対策を実施しながらでも、日常生活の中で入居者の方がやりたいことなどを聞き、希望が叶えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの生活パターンを把握し、気持ち良く過ごせる事を第一としている。その日の体調や様子に応じて、柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や髭剃りなどの整容、その方に合った衣類など、入居者一人ひとりが个性的で、お洒落な装いが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理中の様子を五感で感じていただけるよう、リビングでの過ごし方を工夫している。食事中は、互いの顔が見られる空間で、楽しく快適に食事が出来るように取り組んでいる。準備・後片付けを手伝って役割を持ってもらったり、おやつと一緒に作るなどして楽しみを持ってもらえる様に心掛けている。必要に応じてコロナウイルス感染対策を実施、密を回避、飛沫に注意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの方に応じた水分量を一日の間でしっかりと補給できるように取り組んでいる。個々に応じた食事形態や提供の仕方を工夫している。また、食事量の変化を見逃さないよう、記録に残して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科で、歯科医、衛生士による専門的なアドバイスも受けやすくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に記入、入居者一人ひとりの排泄パターンを職員全員で把握することで、トイレで自然な排泄ができるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の検討、日常的な運動を行い、入居者が必要最低限の下剤服用で、スムーズな排便を促せるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりがゆっくり入浴出来るように、時間に余裕を持ったケアをするよう取り組んでいる。安全に配慮、必要に応じた声掛けをしながら、気分転換になるように会話をするように心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとり生活リズムは違うが、適度に運動できるよう関わり、必要なら適度な昼寝の時間を設けることで生活のリズムを整えて、夜間の安眠および休息を支援している。夕食後から就寝まで自由に過ごしてもらうことで、入眠しやすい環境も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理、使用を徹底している。関係医療機関と連携を図り、症状の変化によって減薬、処方薬の見直し等を考え、主治医および看護師、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染対策実施しながら、外出やドライブと一緒に掛ける、花壇にお花を植えたり、花瓶に生けたり、歌と一緒に歌を歌うなど、それぞれの楽しみに合わせたケアに取り組んでいる。それに加え、食事の準備・後片付け、洗濯物たたみなど家事の手伝いをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染対策実施しながら、入居者一人ひとりに応じて歩行器、車椅子など使用して、散歩に出かけたり、ドライブなどにも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染対策の為、入居者は買い物などへは行くことが難しいので、直接お金を使う機会はないが、必要な物があれば職員が代わりに購入し、要望に応じている。預り金使用した分は出納帳に記入、コピーを家族へ送り、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルス感染対策の為、面会制限があり、なかなか家族にも会えない状況なので、家族への手紙を一緒に書いたり、家族の方からかかってきた電話に本人も出してもらうようにして様子が伝わるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすいようテーブルや椅子を配置し、壁に季節感のあるものを飾っている。また、観葉植物などをさりげなく配置して、生活に安心感を与えられるよう配慮している。コロナウイルス感染対策の為、密にならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには雰囲気に合わせてテーブル、椅子を配置し、入居者の関係性を考慮しながら、穏やかに過ごせるように座席を検討する等の工夫をしている。ソファもゆっくり過ごせる様に、テレビ前に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、入居者の状況に合わせて配置を変えている。昔から使っていた物、写真、オーディオ、仏壇などを必要に応じて持ち込んでもらい、落ち着いて過ごせる環境作りに取り組んでいる。各居室にトイレが備わり、ゆったりと排泄できる環境を提供している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り歩けるよう介助する為、人がすれ違えるほどの廊下の広さを確保している。長時間同じ姿勢にならない為に違う硬さの椅子を用意している。部屋やトイレが分からなくなる入居者の方のために表札を付けたり、歩行が不安定な方には手すりを付けたり、家具の配置を工夫したりといった取り組みを行っている。		